

令和7年度 第1回瀬戸市下水道事業経営審議会議事要旨

- 1 会議名：令和7年度 第1回瀬戸市下水道事業経営審議会
- 2 開催日時：令和7年8月6日（水） 午後1時30分から午後2時50分まで
- 3 場 所：瀬戸市役所 4階 庁議室
- 4 出席者：＜審議会委員＞出席委員4名
磯部 友彦（中部大学 工学部 教授）
稲垣 孝幸（瀬戸商工会議所 副会頭）
加藤 文弥（瀬戸市自治連合会 会長）
服部 富久美（瀬戸消費生活クラブ生活学校 会長）
＜事務局＞
都市整備部長（上下水道事業担当） 加藤 幸治
都市整備部下水道課課長 川原 淳
都市整備部浄化センター管理事務所所長 阪 幹宏
都市整備部下水道課課長補佐兼経営係長 村上 洋行
都市整備部下水道課経営係主査 岡崎 浩典
- 5 欠席者：＜審議会委員＞
齊藤 由里恵（中京大学 経済学部 准教授）
加藤 勝之（瀬戸市社会福祉協議会 会長）
- 6 傍聴人数：1人
- 7 議事
瀬戸市下水道事業経営戦略の進行管理について

＜議事内容＞

【事務局：岡崎浩典】

資料1「瀬戸市下水道事業経営戦略 令和6年度（2024年度）進捗状況報告書」及び資料2「令和6年度瀬戸市下水道事業決算（概要）」に基づき説明。

【委員：加藤文弥】

まとめ（総括）において基準外繰入金（収益的収支）の解消を目標に掲げてロードマップの設定を行ったとあるが、投資・財政計画上ではどのように示されているのか説明いただきたい。

【事務局：岡崎浩典】

投資・財政計画（収益的収支）のうち、収益的収入の他会計補助金が令和6年度決算では4億165万3千円となっていますが、こちらが基準外繰入金（収益的収入）となります。令和7年度以降は下水道使用料改定により料金収入が増加することで他会計補助金は減少し、昨年度改定しました経営戦略では令和10年度に他会計補助金が0となるようにロードマップを設定いたしました。

【委員：加藤文弥】

令和6年度の取組のうち、自主財源の確保手段の検討として保有財産の売却処分について調査・検討を行ったとあるが、どのような取組か説明いただきたい。

【事務局：岡崎浩典】

休止している下水道施設の土地の売却処分等を調査・検討しています。

【会長：磯部友彦】

休止している下水道施設については、災害時も含めた維持管理上の必要性の見極めが難しいと思うので、施設の売却には慎重な検討をしていただきたい。

【委員：稲垣孝幸】

休止している下水道施設としても重要な資産であるため、目先の利益だけでなく、何を改善するために処分を行うのか目的まで十分に検討をしていただきたい。

【委員：加藤文弥】

自主財源の確保の考え方は、一般会計から独立した公営企業会計としては、あるべき姿勢であるため、調査・検討は引き続き行っていただきたい。

【事務局：岡崎浩典】

自主財源の確保については、具体的な目的や検討方法を掲げて、引き続き行っていきます。

【委員：服部富久美】

下水道を100%普及することが難しいということは同感である。処理方法として合併浄化槽でいいという市民もいるのではないかな。よって、将来の負担も考慮して下水道整備方針の検討は行っていただきたい。

【委員：加藤文弥】

意見として述べるが、今後も未普及対策を進める予定であるとされるが、瀬戸市においては地理的な課題もあり100%普及することは難しく、下水道の整備方針の見直しは必要であると考えます。また、別の意見として、収支が確保できなければ、一般会計から補助金等として繰入金が入ることから、1つの自治体が下水道を公営企業会計として運営しなければならないのか疑問である。

【委員：加藤文弥】

経営指標に基づく経営分析については、類似団体や近隣団体など他との比較をグラフ等で示されているが、記述の仕方によっては印象が大きく変わるため、注意していただきたい。

【事務局：岡崎浩典】

委員の皆様からのご意見を踏まえて、今後も経営戦略の進行管理を進めてまいります。

8 その他

次回の開催及び議事について

【事務局：岡崎浩典】

令和7年度は経営戦略のロードマップに従い下水道使用料改定の効果検証を行うため、経営審議会の開催は第1回のみとします。そして、令和8年度には、下水道使用料の効果検証に基づいて下水道料金改定の検討を行います。また、建設改良費の増大に伴う企業債

残高の増加が課題でありますので、下水道整備方針の検討が必要であります。そこで、令和8年度は下水道使用料の改定と下水道整備方針の検討についてご審議いただきたいと考えています。

【会長：磯部友彦】

次回の開催及び議事について、委員の皆様はご意見ありますでしょうか。

【全委員】

意見はありません。

9 閉会